

第1回市町村会議 議事

沖縄県

第1回沖縄鉄軌道市町村会議(全体)

議事要旨

1 日時

南部：平成27年5月25日(月) 14:00～16:00

中部：平成27年5月27日(水) 14:00～16:00

北部：平成27年5月29日(木) 14:00～16:00

2 場所：南部合同庁舎5階第1～4会議室、中部合同庁舎4階第1・2会議室、 北部合同庁舎2階会議室

3 出席者

(1) 市町村

南部：那覇市、浦添市、糸満市、豊見城市、南城市、与那原町、南風原町、八重瀬町

中部：沖縄市、うるま市、宜野湾市、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、西原町

北部：名護市、国頭村、東村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、今帰仁村

※今帰仁村、読谷村は欠席

(2) 事務局

沖縄県企画部交通政策課

4 主な議題

(1) ステップ2の検討内容について

5 議事要旨

(1) 事務局より議題に沿って説明を行い、意見交換がなされた。今回は最初の会議ということもあり、進め方や市町村の役割に関する質問が多かった。

(2) ステップ2の検討内容に関する市町村からの主な意見は下記のとおり

A) 将来像について

- ① 将来人口が減少に伴い自動車の交通量が減る可能性があり、また高齢者も圧倒的に多くなる。
- ② フィーダー交通のあり方については、十分検討すべき。
- ③ 交通結節点の整備は、土地の確保等自治体には大きなポイントとなる。
- ④ 鉄軌道等整備による過疎化への影響を検討すべき。

B) 評価項目について

- ① 自動車による鉄軌道までのアクセスとして、駐車場整備の検討は必要。
- ② 鉄軌道整備に係る地元市町村の財政負担はあるのか。
- ③ 運営主体の採算性が課題。
- ④ 評価項目に施工性があるが、実際の工事よりも用地買収や都市計画決定の手続きに時間を要するためその点にも留意すべき。

C) その他

- ① 鉄軌道の那覇～名護からの更なる延伸。

第1回沖縄鉄軌道市町村会議（南部）

日時：平成27年5月25日(月) 14:00～16:00

場所：南部合同庁舎5階 第1～4会議室

発言者	発言
浦添市	<p>今年度中にどのような計画案を策定するのか。</p> <p>⇒起終点の概ねの位置やルート、システム、駅数や駅位置の考え方、構造などを想定している。</p> <p>今年度は、意見交換という形だが、次年度以降の事業化にあたっては市町村が検討組織に加わる可能性はあるのか。</p> <p>⇒次年度以降の市町村のかかわり方については、今後検討していく。</p> <p>駅の概ねの位置はどのように決めるのか。どの程度、市町村の意見が反映されるのか。</p> <p>⇒具体の駅位置を決める予定はない。駅をいくつぐらい設けなければならないか、どういったところに駅を置くべきか、駅を設ける場合にその結節点をどのように設けるかなど大まかな考え方を整理していくものと考えている。</p> <p>現在、基幹バス導入に向けた取組として、バスの再編等検討が進められている。鉄軌道の整備を契機にバス網の再編は検討されるのか。LRTとの関係はどのようになるのか。</p> <p>⇒鉄軌道と基幹バスが併走するようであればバス網の見直しが必要になると思われる。ステップ3で基幹軸のルートの検討と併せて、フィーダーについても検討していく予定。</p>
与那原町	<p>今回の検討では、具体的に駅の位置等までは検討しないということなので、現在、私たちが検討している鉄軌道のフィーダーとしてのLRTについては、県の計画には取り込まれないと理解してよいか。</p> <p>⇒市町村の計画との整合性を図ることも考えており、今後の意見交換を通じてどのように取り込んでいくか検討していきたい。</p>
八重瀬町	<p>鉄軌道を南部の市町村まで延ばすというのは考えられないのか。</p> <p>⇒現時点で起終点も定まっておらず、幅広い意見をいただきながらステップ3でしっかり検討していきたい。</p>
那覇市	<p>バスレーンなど交通規制に関連する施策では警察との調整が大変だが、交通管理者とのかかわりはどう考えているのか。できるだけ早く関係機関に加えたほうが良いのではないか。</p> <p>⇒今後の検討の進捗状況に応じて検討体制に加えていきたいと考えている。</p>

発言者	発言
浦添市	<p>事業化の時期はいつぐらいになるのか。 総合交通体系基本計画で示されている時期との整合は。 ⇒いつ運行するかは答えにくいですが、2020年には工事着手したいという考えはある。</p>
豊見城市	<p>短中期は10年、長期は10～20年という解釈でよいのか。 ⇒そういうイメージでいいと思う。</p> <p>長期のイメージとなっているものが、短中期で実施する可能性もあるのか。 ⇒議論の結果、前倒しになる可能性もあるが、県民や地域の理解を得ながら進めていくべき事業であるため、状況をみながら時期も変わっていくと考えている。</p>
那覇市	<p>採算性というのが一番の大きな課題だと思うが、見通しはどのようなになっているのか。 ⇒内閣府でも調査を行っており、整備運営が一体であれば採算はとれないという結果になっている。県の検討では、上下分離方式であれば、4万人以上の利用で採算がとれるという結果になっている。</p>
浦添市	<p>会議資料を事前に送信して欲しい。市町村会議の場で、国（内閣府）の検討に関する情報提供をお願いしたい。 ⇒事前に資料を配布してスムーズにいくように対応する。 また、ステップ3以降の検討にあたっては、県の調査結果や内閣府の調査結果の活用も想定しており、資料にも盛り込んでいくことになると思う。</p>
那覇市	<p>ステップごとに市町村会議をするのか。 ⇒ニューズレター配布時期にあわせて開催する。</p>

第 1 回沖縄鉄軌道市町村会議(中部)

日時：平成 27 年 5 月 27 日(水) 14:00～16:00

場所：中部合同庁舎 4 階第 1・2 会議室

発言者	発言
北中城村	<p>鉄軌道の整備に時間を要するので、フィーダーを先に整備するという意味合いで短中期にフィーダーバスが記載されているのか。</p> <p>⇒短中期は、現在取り組んでいる基幹バス、長期は鉄軌道へのアクセスとしてのフィーダーというイメージ。</p> <p>高齢者も含めた県民の視点というのはよい考えだと思うので、人口推移も一緒に示した方がわかりやすい。駐留軍用地跡地のまちづくりのインパクトは大きいと思う。評価項目に施工性があるが、実際の工事よりも用地買収や都市計画決定の手続きの方が時間がかかると思うので、その点は留意した方がよい。</p> <p>⇒将来の人口予測値を考慮した利用者予測を行うこととしているので今後示していきたい。施工性については同様に認識している。</p>
北谷町	<p>地方人口ビジョンで 2060 年までの人口を把握するようになってきているが、将来人口が減少し、自動車の交通量が減る可能性もあり、また高齢者が圧倒的に多くなる。資料にフィーダーのことが記載されているが実現性はどの程度あるのか、自治体としてはまちづくりを行う上での判断材料となる。</p> <p>⇒どのようなまちづくりを行い、どのように交通を整備するかは市町村の判断が重要と考えている。</p> <p>交通結節点をつくるとなると、それなりの土地を確保する自治体には大きなポイントとなる。</p> <p>⇒どこに交通結節点を整備するかも含めて、今後の議論の中で検討する必要がある。</p>
沖縄市	<p>資料には駐留軍用地跡地でのコンパクトな市街地形成がうたわれているが、私たちは既に既成市街地の活性化に取り組んでいる。鉄軌道のルートは跡地を通すべきと考えているのか。</p> <p>⇒必ずしも跡地を通すわけではない。跡地の開発を支援するという意味で記載している。</p> <p>基幹バスが通る国道 330 号を軸に支線バス網の整備を考えているが、将来的にも国道 330 号が基軸となるのか。</p> <p>⇒330 号が基軸になるかは現時点ではわからない。ただし、基幹軸ができればフィーダーが必要となる。支線バス網の整備は、時宜に応じた対応が今後も必要と思う。</p>

発言者	発言
沖縄市	<p>県で公共交通網形成計画作成の予定はないか。</p> <p>⇒那覇市、浦添市、宜野湾市、沖縄市地域公共交通総合連携計画において、基幹バス導入に向けた取組が行われているが、バス事業者と調整を図りながら形成計画への移行も含め連携計画の見直し検討を行うこととしている。それ以外の市町村からの計画策定の情報はなく、把握していない状況。</p>
北谷町	<p>沖縄本島の将来像において中南部の拠点として那覇、普天間等が記載されているが、決定事項か。</p> <p>⇒沖縄県総合交通体系基本計画で既に決定されている内容を示している。</p> <p>具体的にはどの程度の計画案となるのか。</p> <p>⇒概略計画として、起終点の概ねの位置やルート、システム、駅数や駅位置の考え方、構造などを示す内容となる。</p> <p>構想段階であっても市町村では実現するかどうかが気になるところだ。</p> <p>⇒実際の事業化となるとかなり息の長い取組となる。現在は事業化の前の段階である。</p>
うるま市	<p>委員会での検討内容について情報提供してもらえるのか。</p> <p>⇒検討のステップ毎の情報を提供する。</p> <p>市町村の意見を委員会にあげることになるのか。</p> <p>⇒そのようになる。</p>
宜野湾市	<p>今後返還される普天間飛行場は、鉄軌道の有無で跡地利用が変わってくる。普天間飛行場を通る場合、返還のスケジュールを見て検討するのか。</p> <p>⇒普天間跡地の委員会に県も参加しており、情報共有を図っている。普天間飛行場跡は大きなインパクトのある場所だと認識している。</p>
沖縄市	<p>ステップ 5 までのスケジュールが示されているが、会議は何回開催されるのか。</p> <p>⇒PI 毎に市町村会議を開催し、市町村からの意見は委員会に報告する。</p> <p>沿線市町村の役割として、駅の位置等が決まると市町村はまちづくりを考えることになるが、どのように計画には記載されるのか。</p> <p>⇒事業化前なので、概ねの駅位置の考え方を示す。</p>

発言者	発言
北谷町	設置要綱では意見交換となっているが、関わり方がよくわからない。 ⇒ステップ3以降になるとルート等の考え方、複数のルートの絞り方等について各市町村の考え方を示していただくことになり、その意見は委員会へ報告することになる。また、フィーダー交通については市町村の関わりは大きいと考えている。

第 1 回沖縄鉄軌道市町村会議(北部)

日時：平成 27 年 5 月 29 日(金) 14:00～16:00

場所：北部合同庁舎 2 階会議室

発言者	発言
名護市	<p>フィーダー交通について、現在北部圏域で実証実験を計画しているが、鉄軌道の計画との整合性はどう考えているのか。実験の状況も踏まえて、連携していただければと思う。</p> <p>⇒資料を提供して頂ければ、整合を図りながら、将来のフィーダー交通のあり方を検討したい。</p>
国頭村	<p>鉄軌道について、全ての市町村に負担が出るのか。それとも沿線市町村だけなのか。懸念材料として過疎化がさらに進んでいくのではないかと考えており、調査をお願いしたい。現在の計画では名護までとなっているが、国頭村の住民が利用する場合には、名護まで自家用車で行くと思われ、駐車場を整備してもらいたい。</p> <p>⇒市町村の負担については、白紙の状態であり、今後議論されるところと考えている。</p> <p>今後、高齢化が進んでいくため、基幹軸とフィーダーで移動環境を整えることが大きな政策課題と考えている。P&R 駐車場も議論されるところと考えている。</p>
本部町	<p>各市町村にヒアリングを行ってルートを検討すると聞いていたが、この市町村会議がヒアリングという扱いなのか。</p> <p>⇒ルートは、複数案を比較評価して検討する。</p> <p>以前はヒアリングを行う予定であったが、ステップ 1 で決定したプロセスにしたがい検討することとなった。</p>
恩納村	<p>各市町村における駅の数、位置はどうなるのか。また、フィーダー交通を十分に検討してほしい。</p> <p>⇒構想段階では、駅位置などの考え方を整理したものが計画案としてまとめられる。</p> <p>利便性を十分に考慮して、フィーダー交通のネットワークを検討していくが、便数等は利用実態に応じて決定される。まずは県民に利用して頂くための啓発活動が重要。</p>

発言者	発言
名護市	<p>今年度、地方版総合戦略の策定を予定しているが、鉄軌道との整合性を図ることができるのか。</p> <p>⇒B/C 等の算出において人口予測の予測値も活用する。鉄軌道を同総合戦略のなかに組み込めるとは考えていない。</p>
宜野座村	<p>ルートを決定する目処はいつなのか。</p> <p>⇒ステップ 4、5 で絞り込む。</p>
本部町	<p>運賃は JR、私鉄のどちらを目安としているのか。また、客観的指標というのは公表されるのか。</p> <p>⇒一般論では、運行事業者の採算により運賃は変化すると考えている。</p> <p>評価指標は、ニューズレターでの情報提供を通して意見を収集。結果は全て公開と考えている。</p>